

スタウト[®]顆粒水和剤

■種類名：イソチアニル水和剤
■有効成分：イソチアニル----- 40.0%
■化管法指定物質：イソチアニル〔第1種〕----- 40.0%
ドデシル硫酸ナトリウム〔第1種〕----- 4.0%

■登録番号：第23186号（住友化学登録）
■毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）
■登録初年：2012.12.19
■性状：類白色水和性細粒
■有効年限：5年
■包装：500g×20袋

【特長】

- いもち病に高い効果を示すイソチアニルを有効成分とする顆粒水和剤。育苗箱灌注処理で本田の葉いもちを防除。
- は種時から移植日まで使用可能。
- イネに対して安全性が高い。

【適用内容】（2024年11月末日現在）

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 内穎褐変病 もみ枯細菌病 白葉枯病	200倍 高密度には種する場合は50g/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%) 1箱当たり2.5~5g (希釈倍数100~200倍))	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り500ml	は種時覆土前 ~ 移植当日	灌注
		400倍 高密度には種する場合は50g/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%) 1箱当たり2.5~5g (希釈倍数200~400倍))	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り1000ml		
		200倍 高密度には種する場合は50g/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%) 1箱当たり2.5~5g (希釈倍数100~200倍))	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り500ml	は種時覆土前	
		400倍 高密度には種する場合は50g/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%) 1箱当たり2.5~5g (希釈倍数200~400倍))	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り1000ml		
	苗腐敗症 (もみ枯細菌病菌)	200倍 高密度には種する場合は50g/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%) 1箱当たり2.5~5g (希釈倍数100~200倍))	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り500ml	は種時覆土前	
		400倍 高密度には種する場合は50g/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%) 1箱当たり2.5~5g (希釈倍数200~400倍))	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り1000ml		

本剤の使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
1回	3回以内（移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内）

【効果・薬害等の注意】

- 薬液の調製は所定量の水に本剤を所定量加え十分攪拌すること。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5%）1箱当りに乾割として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が50g/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を2.5から5gまでの範囲で調整すること。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはいねに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないこと。
- きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理すること。また、土壌表面に不浸透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさける。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
使用後は洗眼すること。
- ❖ 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。